

# 「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

## ～「3人のレンガ職人・・・」～

今回は「3人のレンガ職人」のおはなしです。読んでみてください。

世界中をまわっている旅人が、ある町外れの一本道を歩いていると、一人の男が道の脇で難しい顔をしてレンガを積んでいた。旅人はその男のそばに立ち止まって、「ここでいったい何をしているのですか？」と尋ねた。



「何って、見ればわかるだろう。レンガ積みが決まっているだろ。朝から晩まで、俺はここでレンガを積みなきゃいけないのさ。あんた達にはわからないだろうけど、暑い日も寒い日も、風の強い日も、日がな一日レンガ積みさ。腰は痛くなるし、手はこのとおりさ！」

男は自らのひび割れた汚れた両手を差し出して見せた。

「なんで、こんなことばかりしなければならぬのか、まったくついてないね。もっと気楽にやっている奴らがいっぱいいるというのに・・・」

旅人は、その男に慰めの言葉を残して、歩き続けた。もう少し歩くと、一生懸命レンガを積んでいる別の男に出会った。

先ほどの男のように、辛そうには見えなかった。旅人は尋ねた。

「ここでいったい何をしているのですか？」

「俺はね、ここで大きな壁を作っているんだよ。これが俺の仕事でね。」

「大変ですね」旅人はいたわりの言葉をかけた。

「なんてことはないよ。この仕事のおかげで俺は家族を養っていけるんだ。」

ここでは、家族を養っていく仕事を見つけるのが大変なんだ。

俺なんて、ここでこうやって仕事があるから家族全員が食べていくことに困らない。

大変だなんていっていたら、バチがあたるよ。」

旅人は、男に励ましの言葉を残して、歩き続けた。また、もう少し歩くと、別の男が生き生きと楽しそうにレンガを積んでいるのに出くわした。

「ここでいったい何をしているのですか？」

旅人は興味深く尋ねた。

「ああ、俺達のことかい？」

俺たちは、歴史に残る偉大な大聖堂を造ってるんだ！」

「大変ですね」旅人はいたわりの言葉をかけた。

「とんでもない！ここで多くの人々が祝福を受け、

悲しみを払うんだぜ！素晴らしいだろう！」



旅人は、その男にお礼の言葉を残して、また元気いっぱい歩き続けた。

イソップ寓話「3人のレンガ職人」

どうでしたか？今の自分はどのレンガ職人に近いのだろうかと考えさせられたのではないのでしょうか。「モ/も見方や考え方」、「視点の違い」によって、「現状の捉え方」・「目的意識」が変わってきます。そして、「プロセス（過程）」に「楽しさ」や「やりがい」（充実感・自己肯定感・成就感）がうまれてきます。同じ時間が流れるなら、よい心持ちで取り組んでいきたいですね。

さて、この話のもう一つの要諦は・・・分かりますか？・・・下線部の所かもしれませんね。

3人目のレンガ職人の言葉は、それを聞いた旅人を元気にさせ、さらに幸福感を与えていますよね！